



「デジタル琵琶湖博物館」「びわはく GIS」 大幅リニューアルしました

概要

琵琶湖博物館は、これまで整備を進めてきた「デジタル琵琶湖博物館」と「びわはく GIS」サイトを大幅リニューアルしました。「デジタル琵琶湖博物館」には、他では見られない貴重な電子資料が盛りだくさんです。「びわはく GIS」では、その生きものがいつ、どこにいたのか、その道具がいつ、どこで収集されたのかを調べることができます。このゴールデンウィークは、家から、フィールドから、「デジタル琵琶湖博物館」「びわはく GIS」にアクセスしてみてください！

デジタル琵琶湖博物館について

「いつでも、どこでも、だれでも」滋賀県の生き物を調べたり、博物館の収蔵物を見たりできる「デジタル琵琶湖博物館」サイトの機能とコンテンツを大幅に増補更新しました。

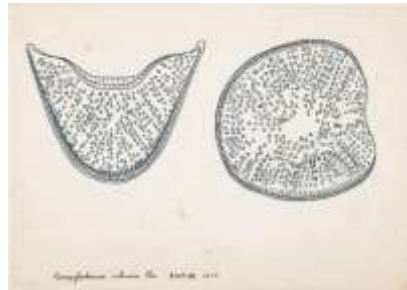
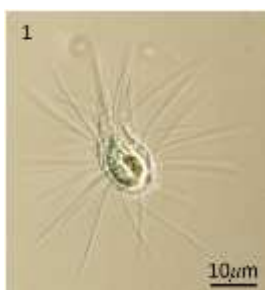
生きもの図鑑：滋賀県の哺乳類、両生類、魚類全種の電子図鑑や、骨格標本の3Dモデルを公開してきました。このほど新たに、プランクトン図鑑の一部(黄金藻とアオコをつくるラン藻は全種を網羅)88種を公開するとともに、日本の田んぼの生きもの6,661種を掲載した「田んぼの生きもの全種データベース」に分類検索機能をつけました。

昔の道具：3Dモデルを回転させたり拡大したりして、手に取って見るよりも鮮明に標本を観察することができます。現在、縄文土器10点を公開中。

文献(新規)：もともと「許可無断転載」として出版された「日本生物学会誌」や、滋賀県水産試験場が1967年以前に出版した報告書など、著作権フリーの文献を公開中。

研究遺産(新規)：滋賀県および琵琶湖・淀川水系と関係が深い研究の先人たちが残したスケッチ、フィールドノート、標本などの写真を公開しています。現在、根来健一郎の原図、可児藤吉のフィールドノート、田中阿歌麿のスケッチブック、堀與曾市の標本集(伊吹山文化資料館収蔵)合計約4,000点を公開中。

びわこクイズ：琵琶湖にまつわる「単純ではない」問題を集めています。全部で5問。



びわはく GIS について

びわはく GIS (Geographic Information System) は、琵琶湖博物館の収蔵資料が収集された場所や、生き物の観察データの位置情報を地図上に表示させるシステムです。令和 8 年 4 月現在、鳥類標本、探鳥会観察データ、民具、昆虫の 4 種類のデータが表示されています。

背景の地図を過去の空中写真や植生図に切り替えることで、資料や観察データが得られた当時の環境等を知ることができます。背景地図として、国土地理院が公開している地図や、標高図、航空写真、植生図等を用意しています。また、自治体、期間、資料分類による絞り込み検索ができますので、どのような資料や生き物がいつ、どこで収集あるいは観察されたのかを調べることができます。

※探鳥会観察データは、日本野鳥の会滋賀と滋賀県野鳥の会の会報に掲載されたデータをご提供いただきました。



びわはく GIS で、冬に琵琶湖博物館周辺で採集された鳥類標本を表示した様子

担当学芸員から

プランクトン図鑑は未完成ですが、かなり詳しい人でも知らない、日本の代表的な図鑑にも載っていない種類がたくさん載っています。「日本生物学会誌」には、琵琶湖博物館初代館長・川那部浩哉さんの推薦文が寄せられています。可児藤吉氏が提唱した「河川形態型」や「すみわけ理論」の発想のもとになったフィールドノートは、川に関わる人必見です。生き物や民俗資料などの膨大なデータを、びわはく GIS で時期や背景地図を変えながら表示することで、様々な発見があるはず。皆でびわはくのディープな世界にはまろう！



デジタル琵琶湖博物館 トップページ



びわはく GIS 入口ページ